

派遣先所属 岩手県宮古土木センター

氏名・派遣期間 梶ヶ谷秀之（平成 26 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日）

榎本 眞一（平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日）

## 1 派遣業務の内容、現況

派遣先の宮古土木センターでは、道路や河川、防潮堤などの整備を行っていますが、私たちは用地第 2 チームに所属し、道路用地の買収を行っています。

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災では、津波により住宅や商店だけでなく、多くの道路が破壊されたほか、ガレキによる道路分断が発生しました。

このため、海辺の集落を結ぶ道路が使えなくなり、集落が長期間孤立するなどの甚大な被害が発生しました。

現在では既存道路の復旧は概ね終わっていますが、再び津波が来ても交通分断が生じないような災害に強い新たな道路が必要です。

このため、津波シミュレーションにより前回と同様の高さの津波が来ても浸水しない高さや構造の道路を計画して整備をしています。



また、三陸沿岸地域の復興のためには、内陸部から沿岸へ利便性の高いアクセス道路が必要であるため、交通隘路解消や防災対策にも役立つ高規格道路の整備を行っています。

完成した際には、盛岡から宮古までの自動車による移動時間を大幅に短縮することができ、多くの人たちが宮古を訪れることとなるでしょう。

宮古土木センターの職員は非常にモチベーションが高く、何としても早く復興を成し遂げるという強い志で業務に励んでいます。

特に用地買収チームと道路工事チームの連携がすばらしく、不可能とも思えた膨大な業務も特筆したスピードでこなすことができました。

宮古土木センターにおける復興道路は、予定どおり平成 30 年度に完成することができそうです。

## 2 復旧・復興や被災地での見聞・感想

宮古駅周辺の商店街は、津波被害からの立ち上がりが非常に早く、一見すると本当に災害があったのかと感ずるほど普通の状態に戻っているように見えます。

しかし、市内のほとんどの公園には、震災から4年半が過ぎた今でも仮設住宅が立ち並び、まだまだ被災された方々の住宅整備が必要です。



そのような中で、沿岸部の区画整理事業や高台住宅団地は、平成28年度から次々に完了していき、ようやく住宅関係も整ってくることとなりました。

宮古市街地から離れて海沿いの道路を走っていると、「津波到達地点」の看板が目立ってきます。

こんな高さまで津波が来たのか？という驚きと同時に、再び被害を起こしてはいけない、被災を忘れてはいけないということを強く感じます。

さらなる復興が進むことにより、震災で離れてしまった多くの人たちが戻って来るだけでなく、新しい人たちも安心して幸せに暮らせることを期待します。

今年は宮古湾が開港400年を向かえ、大型客船や帆船日本丸を誘致した「船の博覧会」や「シーカヤックレース」、「SEA 級グルメ大会」など漁港らしい様々なイベントが開催されて賑わいを見せています。



岩手県は、海、山の幸、温泉もたくさんあります。

宮古市は、水産業で栄え、牡蠣、ウニ、アワビ、サケ、ワカメなどが特に有名であり、狭い平野部の後ろには早池峰山脈がそびえ、四季を通じて自然の美しさを感じることができるようです。

宮古市に来た事がない方も、ぜひ訪れていただきたいと思います。

みなさんに来ていただくことが復興の一步につながります。